

新国立競技場、新たな完成予想図を公開 年内にも着工へ

2016年6月25日07時14分



南東側からの鳥瞰（ちょうかん）図＝大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成／JSC提供

2020年東京五輪・パラリンピックの主会場になる新国立競技場の基本設計が完成し、整備主体の日本スポーツ振興センター（JSC）が24日、新たな完成予想図を公開した。設計を手がける建築家の隈研吾氏は記者会見で「採用された案を元に改善し、イメージ通りにできた。短期間でできてうれしい」と話した。

「木と緑のスタジアム」のコンセプトなどはそのままに、障害者団体やスポーツ団体などの要望を採り入れ、コンペ時から細部を変更。1階に造る予定がなかった健常者用トイレを置き、第2層の観客席の車いす席は分散して配置し、様々な角度から観戦できるようにした。選手控室は四角から楕円（だえん）形に変え、中央に立つ監督に選手の視線が集まりやすくした。旧国立競技場にあった野見宿禰（のみのすくね）像とギリシャの女神像の壁画は、東側ゲートに設置される。

今後は予定通り、11月までに実施設計をまとめ、年内に着工できる見通し。

2019年11月に完成見込みで、工事費

は約1490億円としている。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.